

新年挨拶

皆様、新年あけましておめでとうございます。医師会長の平澤でございます。会員の皆様におかれましては、コロナ禍の中、例年とは異なる自粛生活の中で、静かに新春をお迎えになられた方も多きことと存じます。

一方、検査診療医療機関として、年末年始も発熱患者の診察に当たられた先生方には大変なご負担をおかけしたことと思います。紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

本来ですと、1月5日の新年祝賀会の会場で皆様の前でご挨拶すべきところでございますが、新型コロナウイルス感染症患者数が再増加する中、本年度は会場にお集まりいただくことは感染対策上好ましくないため、今回はネットワークを通じての挨拶に代えさせていただきます。

ご来賓としてご来場いただく予定だった方々には、大変ご多用のところ、新宿区医師会誌にごあいさつ文を賜り、誠にありがとうございました。医師会を代表して厚く御礼を申し上げます。

さて、2020年を象徴した出来事といえば新型コロナウイルス感染症の話題に尽きると思います。

100年に1度といわれる感染症が大流行し、3月にはWHOが新型コロナウイルスのパンデミックを表明しました。

新宿区医師会では、1月の理事会において、武漢で正体不明の感染症が発生しているという報告をして注意喚起を促してはいましたが、当時は医師会女性支部設置や定款改正の議論が議事を中心であり、国内の報道でも新型コロナ感染症よりも、むしろカルロス・ゴーンの海外逃亡事件が注目されていたような時期でありました。

ところが、2月になると、国内での感染が確認・拡大をはじめ全国小中高の休校要請がなされ、その後、新聞の一面報道は一気に新型コロナ感染症一色となってまいります。

3月には高校野球やプロスポーツの開催の中止が次々と発表され、著名人の死去も相次ぎ、4月には緊急事態宣言が発出される事態となりました。

今までなじんできた生活環境も様変わりしてマスクや手洗いなどそれまでは意識されていなかったウイルス対策が綿密に施されるようになり、私たちも自主的な行動変容を余儀なくされています。東京オリンピック・パラリンピックも延期となり新しい生活環境や在宅ワークなど仕事の環境も大きく変化し、現在進行形で日常生活に影響を与え続けています。

新宿区では、当時国立国際医療研究センター病院の杉山病院長が医師会理事

を務めていただいたこともあり、初期の段階から基幹病院、医師会員ともに新型コロナウイルス感染症に関する詳細な情報を共有し、感染症の拡大とともに起こりつつあった医療崩壊への強い危機感の元、吉住区長の迅速なご判断もあり全国に先駆けて新型コロナウイルス感染症検査スポットを設置することができました。

しかし、第2波の発生においては新宿区の歌舞伎町を中心とした夜の街での感染が震源地とされ、家庭内や職場、さらには介護施設などに広がり、新宿区から全国に感染が拡大をきたしたと報道されました。

新宿区のイメージダウンは計り知れず、新宿への来訪者が減少した結果、区内の多くの企業が経営赤字をかかえるようになり、東京都内では新宿区の医療機関の被ったダメージは他地区に比べて特別に大きかったことがデータ上もはっきり出ています。このままの状況が続けば、新宿区の地域医療を守ることが困難になることも危惧される状態でした。

10月下旬には第2波が高止まり状態ではあるものの、明らかな増加傾向はみられずこのまま収束に向かうことが期待されましたが、11月に入り、気温の低下とともに北海道から第3波が発生し、瞬く間に全国に感染が拡大しました。

区内の多くの企業がダメージの回復のために様々なイベントを開催し始めた矢先の第3波の発生でありますので、予測されていたこととは言え、パンデミック感染症の怖さを改めて実感する今日この頃ではあります。

今後、気温の上昇、ワクチンの供給、個人対策のさらなる徹底など期待できる要素もありますが、ワクチンについては有効性、副反応、接種回数の問題など現時点では未解決な点もあり、しばらくの間は新しい生活様式への行動変容は維持せざるを得ないと推測します。

今回のコロナ禍におきまして、吉住新宿区長からは新型コロナウイルス検査スポットの設立や、インフルエンザワクチン一部無料接種など多大なご理解とご協力を賜りました。

東京都医師会の尾崎会長以下多くの方々からは、第2波において歌舞伎町が震源地であったため、新宿エピセンターと名指しされ感染症対策に苦慮する我々新宿区医師会に対して多くの励ましとアドバイスをいただきました。

国会議員、都議会議員、区議会議員の皆様にも保障等について様々な要請を行い、それぞれの立場からご支援を賜り、誠にありがとうございました。

また、多くの有志の方々からマスクやアルコール、ガウン、フェイスシールドなどの寄付をいただきました。ご寄付いただいた方々のお名前は別途ホームページ上に掲載させていただいておりますが、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

今回のコロナ禍の中で、新宿区全体が大きなダメージを被ったわけですが、一方で、新宿区の感染症対策の強化やイメージ回復のため、医療以外の様々な

業種の方々と新宿区医師会の協力体制ができましたことは大きな収穫であったと思います。

新宿区医師会は、今後、区民の皆様のみならず、区内の在勤者、在学生など新宿区にかかわりのある方と正確な情報を共有しながら、感染症医療の供給と経済並びに感染症予防対策の両立のためのかじ取りの役割を果たしていきたいと考えております。

今冬は、現時点では危惧されたインフルエンザとの同時流行は起こっておりません。この理由は、いわゆるウイルス干渉による現象とする説もありますが、感染症対策が徹底されたためと考えるのが妥当と思われます。徹底した感染症対策によっても爆発的に感染拡大する新型コロナの並外れた感染力の強さに、改めて新型コロナウイルス感染症の厄介さが浮き彫りになっていると思います。

本年は、延期された東京オリンピック・パラリンピックが行われる予定となっており、新型コロナ感染症を正しく理解し正しく恐れ、感染症対策の基本を守ることがより重要となっております。

コロナ禍が一日も早く収束して、以前の日常を取り戻すことを期待するとともに、今回のことを教訓として今後も新興・再興感染症に対する備えを常に忘れないようにしたいものです。

今年1年の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和3年1月

一般社団法人新宿区医師会

会長 平 澤 精 一